

第3回「庄内空港機能強化検討会議」
会議における発言内容

(1) 関係者ヒアリング

■ 全日本空輸株式会社 様

- ◇ コロナ禍以降の国内線における事業環境・需要構造の変化や収支改善に向けた取組みについて、ご説明いただきました。
- ◇ 今後も運航コストの増加が見込まれる中、庄内地域における「ANA SHONAI BLUE Ambassador」による情報発信をはじめ、羽田発着国際線からの乗り継ぎを活用したインバウンドの取り込みなど新たなターゲットの創出や、低収益な時期・曜日・時間帯での運航コスト改善が収益性向上に不可欠などの説明がありました。

■ 株式会社庄交コーポレーション 様

- ◇ 庄内空港における地上支援業務の現状と課題や今後の取組に向けて必要な空港機能について、ご説明いただきました。
- ◇ 現在、国際チャーター便の受入れは国内定期便に影響が出ない時間帯に限られており、今後、国際定期便の受入れを進めるためには、国際線専用施設の整備や地上支援業務の人材の確保・定着など、受入体制強化が必要との説明がありました。

■ 一般社団法人DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー 様

- ◇ 鶴岡市におけるインバウンドの現状や、庄内地域への入り口として空港に期待する役割について、ご説明いただきました。
- ◇ 庄内地域へのインバウンドは、台湾のほか、欧米豪など多様な国から来訪しており、出羽三山を目的とする来訪者が多い一方で、庄内空港の認知度の低さが課題であるため、例えば、空港の名称を観光地と紐づけたものに変更するなど、インバウンド需要の取り込み拡大に向けた大胆な取組みや、海外の各市場の特徴を活かした誘客戦略が必要であるとの説明がありました。

(2) 事務局からの説明

■ 稚内空港の冬季就航率改善に向けた取組みについて

- ◇ 庄内空港では冬期間の厳しい気象条件による就航率の低下が課題となっており、同様の課題を持つ稚内空港において、滑走路延長事業により冬季の就航率改善を図った事例を説明。
- ◇ 稚内空港では、平成19年度から21年度の3か年で滑走路を200m延長する事業を行ったことにより、欠航要因の一つである着陸時の横風制限や重量制限などが緩和され、着陸できる機会が増加した結果、羽田便の年間平均の就航率が向上した。